



おかじまさのぶ
岡島政信 議員
OKAJIMA Masanobu

Q. 読書の推進に力を

A. 本を手に取り取る時間を増やす

全国学力・学習状況調査は

4月から5月におこなわれている。この調査は学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることを目的としている。

本町の学力・学習状況調査の結果まとめでは、①小学校国語、算数ともに、平均正答率は愛知県・全国より下回っている。②小学校・中学校ともに記述式の問題は無回答率が高い。③携帯電話・スマートフォンをもっていない児童生徒の割合は、全国・県平均より下回っている。また「使用の約束をきちんと守っている」と回答した児童生徒の割合は、全国・県ともに下回っており「約束がない」と回答した児童生徒の割合は、全国・県平均ともに上回っている。などと報告されていた。

これを踏まえ、質問をする。

の改善につなげているか。

A 教育委員会事務局長

他学年や各教科での指導に参考となる情報を活用し、教育委員会で分析した結果を学校の担当者と共に共有し、改善を図っている。さらに文部科学省作成の「授業アイデア例」など、日々の学習指導の改善・充実を図っている。

Q 調査結果のまとめで「記述式の問題は無回答率が高い」とあった。児童生徒たちに必要な応用力や記述力、考える力、課題解決力などを、どのように身につけさせる考えか。

A 教育委員会事務局長

子どもたちがこれからの社会で活躍できる力を身に付けていくには、言葉の力の育成が重要である。そのため、授業内における書物などとの対話の推進を考えている。

れているか。

A 教育委員会事務局長

国語科の授業において学期末ごとに読書に関する学習を行っている。中学校では、「先生からのおすすめの一冊」という取り組みを企画し、図書室にコーナーを設け、小学校では、「読書ビンゴ」や「多読賞」を企画し、多様な図書に触れ、読書を楽しめる機会の取り組みをしている。

Q 学校以外でもスマートフォンなどに使用している時間が読書の時間になるように、読書の推進に力を入れては。

A 教育委員会事務局長

スマートフォンなどではなく本を手取る時間が増えるような取り組みの充実を図る。

読書推進策として、学校HPへの読書活動の掲載など、家庭での読書の推進をしていく。

さらに、社会教育センターにおいて、子どもたちが落ち着いて取り組める環境を新たに

に用意するなど、若い頃から本を読むことができる対策を講じる。

